



発行
豊中市人権教育推進委員協議会
機関紙編集部会
(豊中市教育委員会事務局社会教育課内)
電話 06-6858-2580



令和4年度(2022年度)人権作品募集入選作品より

巻頭言

ハミゴをつくらないまちづくりを願って

会長 青木 康二

わたしは中学校教員を退職して13年目となります。赴任した日付は4月10日で、すでに始業式や入学式は終えた後でした。出会ったのは、校区の小学校を卒業しすでに中学就学年齢を大きく超えていた「障害」の重複した生徒でした。新年度を迎えてようやく彼を受け入れるという判断が出た、今では想像できない47年前のことでした。

本年5月14日に「『ひろがり』学級設置50周年の集いの場」を開催しました。かつて、「就学猶予・就学免除」の名のもとに、「障害」のある一部の子どもたちが学校教育の場から排除されていました。「ひろがり」学級は、そのような子どもたちの教育を保障するため1973年5月14日に開設されました。全国に先がけた豊中市のこの取組みは高く評価され注目を浴びました。学級開設に込められた願いは「教育の場でいかなる人も排除・差別せず、共生・共学の社会をめざしたい」というものでした。当時の「不就学児親の会」の代表は、「自分のことは自分でやるしかない、頼れるのは自分だけだ、この子のことを本当に考えている

のは自分しかいない」と思って『身障者』は一生学校へ行けないものとあきらめていた。何の役にもたない社会のやっかい者扱いされていたのに・・・そのわが子を人間として認めてくれるときが来た」と書き綴っていました。それから50年、今では願いさえすればどんな「障害」があろうと校区の学校への就学が当たり前のこととなりました。

国連障害者権利委員会が日本政府へ「懸念と勧告」を通知したのは昨年9月でした。その内容の一つが「医学モデルから社会モデルへの転換」で、分ける教育の中止と「障害」のある子どもにインクルーシブ教育の権利の保障を求めました。豊中市の取組みを国連がバックアップしてくれたのだと思いました。ありのままの姿や状態で、人とひととがたがいを丸ごと認め、支えあう、そんな関係が紡がれていく人権のまち、豊中であることをせつに願っています。



◆ 総会報告 ◆

鮮やかな青葉の香がそよぐ5月18日(木)、アクア文化ホールにて、令和5年度(2023年度)豊中市人権教育推進委員協議会の総会が開催されました。134名の出席のもと、総会成立が報告され、昨年度の事業・決算・監査報告の承認に続き、本年度及び次年度の役員推薦と承認、規程改正案の可決と成立、および本年度の活動方針・事業計画・予算が提案され承認されました。

総会では、来賓の方々よりお祝いのお言葉をいただきました。その中で、障害の有無に関わらず共に学ぶ「インクルーシブ教育」についてのお話があり、全国的に見ても豊中市の取り組みが進んでいることを知ることができました。

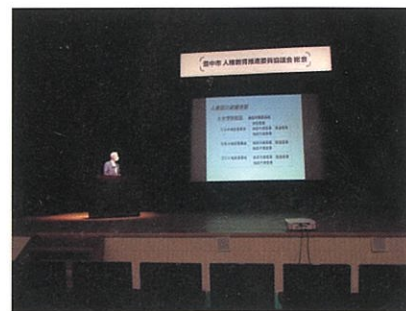


◆ 総会後の研修会を終えて ◆

総会後の研修会ではLGBTをテーマにした人権啓発DVD「バースデイ」が上映されました。主人公の笑花は、女性であることに生きづらさを感じ、^{えみか}尊と名前を変え男性として生きることを選びます。職場の理解は得られたものの、両親に打ち明けると母親は混乱し反発します。しかし、はじめは抵抗を感じていた母親も知識を得、理解を進めることで徐々に尊を受け入れていきます。

一人ひとりが既成概念にとらわれず相手を尊重することで、悩みを抱えた人も自分らしく生活できる社会になればと思います。

DVD上映後、地区代表委員の活動の進め方・事務手続きの方法などが説明され、研修会を終えました。



人権教育をすすめる市民の集い

(世界人権デー啓発事業)

開催要項

主 旨 豊中市人権教育推進委員協議会はすべての市民の人権意識を高め、より人権尊重の輪を広げるため「市民の集い」を開催します。

開 催 日 令和5年(2023年)12月12日(火)

時 間 13:00～15:30(受付12:30～)

会 場 豊中市立アクア文化ホール

プログラム

意見発表 九中校区

記念講演 講 師 玉木 幸則 さん
(一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク代表理事)

タイトル 誰ひとり取り残されないまちづくり
～フル・インクルージョンをめざして～



「人権教育をすすめる市民の集い」参加について

「市民の集い」に参加ご希望の推進委員の方は各地区代表委員または常任委員に直接お申し込みください。一般の方は下記までお申し込みください。 一般申込締切 12月1日(金)

手話通訳・筆記通訳・保育あり(保育は2歳以上。12月1日(金)までに要予約)

参加申込(問合せ先)

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1

豊中市人権教育推進委員協議会事務局(社会教育課内) 電話 06-6858-2580 FAX 06-6846-9649



令和5年度(2023年度)活動方針



寒さきびしい2月初め、「人権作品展」が市役所第二庁舎ロビーで開催されました。足を止めて見入る人、入選したわが子の作品の前で記念写真に収まる家族連れ、ウクライナに平和を希求する作品など、いずれの作品も市民一人ひとりに春の陽だまりのようなメッセージを届けているようでした。

「市民の集い」では、八中校区の小中一貫教育推進校からの報告でした。中学校教員による小学校での授業交流、小学校による教科担任制の導入、合同あいさつ運動など、「中一ギャップ」の解消はもとより、異校種間での学校文化の相互理解や教育目標の小中共有化は、学力保障をはじめとして不登校やいじめ解消にも有効な実践だと思えました。

挨拶運動でも、中学校長「卒業したら八中においてよ」「えっ、行かないかも・・・?」、卒業前になると「う～ん、たぶん・・・八中に行くよ!」、こうした八中校区の「学びをつなぐ」実践に、敬意と共感の拍手が送られました。

記念講演は、「突然、僕は殺人犯にされた」の著者、スマイリーキクチさんのお話でした。少年らによる凶

悪な殺人事件、その10年後にキクチさんも殺人犯の一人とする陰湿な噂がインターネット上に流されました。犯人の年齢や事件現場がキクチさんに関係するという、それだけの理由から、仕事や家族を巻き込むほどの執拗な誹謗中傷事件に、長年に亘って闘い続けられたのです。キクチさんを殺人犯と噂を流したのは情報の識別も発信元への真偽確認もない、ネットに隠れた只々無責任な人たちでした。

今もネット上に拡散される誹謗中傷や陰湿なネットいじめが後を絶ちません。こうした悲劇が繰り返されないためにも、まずは不確実な情報は他に絶対に拡散しないこと、私たちにも出来ることがあることを教えられました。

9月には関東大震災(大正12年(1923年))から100年目を迎えます。現地研修に防災センターを訪問する校区も少なくありません。私たちも、東日本大震災やトルコ・シリア大地震の復興など、将来必ず起こる南海トラフ巨大地震への備えとして、100年前の関東大震災にも関心を向けていきたいものです。

つなごう つなげよう 人権の輪

「知る」ことの大切さ

二中校区常任委員 矢森 和枝

人権協の活動に参加し「知る」ことの大切さを知りました。

「人権」と聞くと、どうしても「難しい」「固い」などの印象があります。

昨年度、二中校区では「人権カフェ」を開催し、お茶を飲みながら「人権」にまつわるさまざまなことについて語り合いました。参加者の体験談や考えが知れ、とても良い会になりました。

今、世界では、戦争や紛争、差別やいじめ、SNS問題など、思わず耳をふさぎ目を背けたくなるような問題やニュースで溢れかえっています。

すべての人の人権が尊重されれば悲しいニュースはなくなるのかもしれない。途方もないことかもしれませんが、「知る」「考える」ことが小さな一歩となることを私は信じています。

人権協の活動を続けて思うこと

十七中校区常任委員 加納 昌美

私が入権協の活動に参加するようになって15年ほどになります。その間、人権講座や現地研修などの活動に参加させていただきました。活動を振り返ってみると「常識」というものが変わってきているなと感じます。

例えば、人権講座でトランスジェンダーのこと、ネット上での交友関係(SNS等)のこと、などのお話を伺い「常識」の変化を感じましたし、現地研修の少年院では入所者の傾向や対応の仕方が時代とともに変わってきていると伺い、これも「常識」が変わったのだと感じました。

15年前には思いもよらなかった「常識」の変わりように、これからも人権講座等を通じてアンテナを張っていなければ時代の変化にはついていけないのだと思っています。

学校では今

持続可能な社会をめざして

上野小学校は児童数が1,000人を超える大規模校であり、1967年に「帰国子女研究協力校」に指定を受けて以来、帰国・渡日児童を受け入れています。現在では、毎年20人前後の編入や転入があります。2009年にはユネスコスクールに加盟し、持続可能な開発のための教育(ESD)を推進してきました。

本校には、あいあいルームとよばれる帰国・渡日児童が日本語の学習や未学習の教科のサポートを受ける教室があります。初めて日本に来た子どもたちは、学習面だけでなく、「友だちとどうやって遊べばよいのか」など不安でいっぱいです。そこで「お互いの国の生活や文化を知ろう」というねらいのもと帰国保護者会(あいあいルームの帰国・渡日児童の保護者の集まり)と連携して、2つの取組みを行っています。

一つ目は、「帰国保護者会から滞在国の学校生活や文化についての話を聞く」という取組みです。二つ目は、「う

豊中市立上野小学校長 田中 明美

えのワールドミュージアム」で、帰国保護者会の方が在留国から持ち帰った学用品や玩具、民族衣装、民芸品などを展示して、全学年の児童が見学するという行事です。

これらの取組みを通して、「自分の国のことを知ってもらえた!」と帰国・渡日児童が安堵感を抱いたり、また「中国語の言葉を覚えたい!」と図書館で中国語の本を借りる子どもたちの姿も見られました。

子どもたちが自分とは違う価値観、違う国の文化を知ることができることは、社会の多様性を学び、広い視野で考えられる豊かな心の育成につながります。外国にルーツを有する児童の数は、着実に増えています。誰にでも屈託なく「どこから来たの?」と話しかける子どもたちの姿は、これからの「持続可能な社会」を照らす光であると感じます。



基礎講座①②を受けて…



①豊中人権協のあゆみと今後の課題
元豊中市教育委員会人権啓発指導員 新堀 祥一



②むかし話に込められた人権文化
人権協事務局長 西田 益久

地区代表委員を経て常任委員になって久しぶりに基礎講座を受講しました。

①は、今では国籍や肌の色、出生にとらわれず、同じ人間として多様性を認めることが重要であると学校教育や報道などでも言われていますが、昔は差別が当たり前前に存在したことを忘れることなく、住みやすい社会を創る努力を続けていかなければと思いました。

②は、言葉は人の心を和ませることもあれば傷つけることもある、使い方を間違わないようにと心から思いま

した。子どもの頃に歌った遊び歌もひも解いてみると、歴史や民衆の生活などが垣間見られることがあります。今では問題となる人身売買のことを歌ったものや、災害を治めようとしたものなど当時の人々が何に困り頭を悩ませていたのかがわかりました。今は平和で豊かな世の中になりましたが、いじめなど人権侵害はなくなっ

たはいいません。一人ひとりが尊重される明るい社会にするためにも人権学習を続けていこうと思いました。

庄内さくら学園校区常任委員 國見 静香

編集後記

7月27日に豊中市の気温が39度を観測されました。今までに経験のない暑さです。熱中症警戒アラート、線状降水帯の発生による豪雨、ハワイ・マウイ島の山火事など、気候変動の影響でしょうか、各地でいろいろな事態をもたらしています。

この夏は、防災や人の命、幸せについて考えさせられることがたくさんありました。

最後になりましたが、「じんけん」165号発行にあたり、ご執筆・ご投稿いただきました皆さまに、心からお礼申し上げます。

副会長 若柳 玉貴